

北海道社会学会ニュース

H.S.A.NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局

〒060-0906 北海道札幌市東区北6条東3丁目3-1 サッポロ63ビル6階
北海道NPOサポートセンター気付

FAX: 011-299-6941 E-mail: socio@npohokkaido.org 担当 畑
郵便振替口座 02760-3-3085 URL <http://www.hsa-sociology.org/>

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION

c/o Hokkaido NPO Support Center,

Sapporo 63 Bldg., Kita 6 Higashi 3 3-1, Higashi-ku,

Sapporo, 060-0906 JAPAN URL <http://www.hsa-sociology.org/>

編集責任者：西浦功（庶務理事） 北翔大学人間福祉学部 nishiura@hokusho-u.ac.jp

〒069-8511 江別市文京台23番地 TEL 011-386-8011（代表） FAX 011-387-3692（人間福祉学部共同研究室）

第60回北海道社会学会大会について

平沢 和司（研究活動委員長）

第60回北海道社会学会大会は2012年6月9日（土）に、國學院大學北海道短期大学部（滝川市）で開催されました。会員が1人の開催校の負担軽減、ならびに札幌近郊在住の会員の利便性を考慮し、1日開催としました。

一般報告は13本で、午前と午後それぞれ2教室に別れ、合計4つの部会が開催されました。

例年開催されているシンポジウムは、1日開催による時間的な制約などの理由から実施しないこととしました。代わりに特別セッションとして「エイジング研究のマクロとミクローリスクとタスクの観点からー」が企画され、笹谷春美会員と金子勇会員から報告がありました。セッション全体で1時間30分と比較的短時間でしたが、密度の濃い議論が交わされました。当初予定されていたワークショップについては、検討を続けることにします。

大会参加者数は、一般会員31名、院生会員13名、非会員4名の計48名でした。

総会終了後には、滝川駅に近いボン・ビヴァンに移動し、懇親会が開かれました。参加者数は32名でした。

大会運営にあたってくださった國學院大學北海道短期大学部の野崎剛毅会員、同大の関係者、および学生のみなさまにあつく御礼申し上げます。

第60回北海道社会学会総会について（第60回北海道社会学会総会議事抄録）

日時：2012年6月9日（土）16:45～17:30

会場：國學院大學北海道短期大学部 402教室

議長：加藤喜久子会員

報告

1. 庶務報告（西浦庶務理事）

1-1. 会員異動（2011年6月～2012年6月）

新入会員11名・退会会員18名（うち自然退会6名）で、6月9日現在の会員数は一般会員119名・学生会員25名の計144名。

1-2. 理事会開催

2011年11月、2012年2月、6月の3回およびメールによる持ち回りで随時開催した。

1-3. 会報の発行

4号発行（No. 88～91）した。

1-4. 学会研究奨励賞の交付

6名の応募者のうち2名を採択した。

1-5. その他

・『現代社会学研究』は22号までアーカイブ化済み。23号以降は現在準備作業中である。

・学会HPのサーバー移転に伴い、学会HPのURLを変更した。

2. 研究活動委員会報告（平沢研究活動委員長）

今学会大会の自由報告申込を遅延した会員について報告があり、合わせて①次号ニュース等に「申込メールの送信日時が締切を過ぎている場合は理由如何を問わず一切認めない」旨を掲載する、②今回の件を文書で記録し以降の委員に引き継ぐことの2点が報告された。

3. 次回大会校について（櫻井会長）

次回大会校を北海道大学とする旨報告があった。

議題

1. 2011年度決算（小内純子会計理事）

提案（後掲）のとおり承認された。

2. 2012年度予算案（小内純子会計理事）

提案（後掲）のとおり承認された。

3. 編集・投稿規程並びに執筆要項の改定案について（飯田編集委員長）

別紙資料に基づき編集・投稿規定並びに執筆要項の改定案が説明され、編集委員会案が承認された。

4. 2014 年世界社会学会議に向けての「メッセージ」について（原副会長）

2014 年の世界社会学会議へ向け、社会学系コンソーシアムより各参加学協会宛に「世界へのメッセージ」の寄稿依頼があった。これに対し、学会として寄稿する方向で準備をすすめること、並びにメッセージの内容は理事会に一任することが提案され、承認された。

第 3 回理事会報告

日時：2012 年 6 月 9 日（土）12:00～13:30

会場：國學院大學北海道短期大学部 206 教室

出席者：櫻井会長、原副会長、平沢・小内（透）・飯田・高橋・木戸・小内（純子）・西浦の各理事

議事

上記の総会における議題と同じ。

第 60 回大会 特別セッションについて

原 俊彦（札幌市立大学）

今回の大会は第 60 回（人でいえば還暦！）なので、何か区切りとなるシンポジウムを企画しようといった議論が事前にあった訳では（なぜか誰も意識せず）ないが、期せずして、まさに 60 回にちしい特別セッションが開催され及ばずながら司会を務めさせて頂いた。

周知のように報告者の二人は、長年にわたり調査・研究・教育活動に携わり、本学会の中心的メンバーとして活躍して来たが、各大学でのキャリアもほぼ終わり、いよいよ後進に後を託す時期に差し掛かかっている。また二人の主要な関心は高齢社会への社会的対応という点にあり、一方は主としてマクロデータを用い行政・制度・政策上の対応を論じ、他方は聞き取り調査などのミクロデータを用い当事者視線、ボトムアップ的観点からの対応を追究するというアプローチの違いはあるものの、その相違が、改めて、この問題領域を立体的に浮かび上がらせる良いセッションとなった。

第 1 報告では金子勇（北海道大学）が「高齢社会のリスクとタスク」と題し、「1990 年代までの『老人問題史観』を乗り越えるために、世代論を中心として、比較都市高齢者の研究を通して『少子化する都市高齢社会』の解明を心がけた」という、自身の研究の流れを振り返るとともに、マクロデータによる総合的理解という観点から、高齢社会システムの様々なリスクについて論じた。また、このような問題状況への対応として「WHO による active

ageing の決定要因」をキーに「positive ageing の要件（タスク）」を示し、個人レベルでの「予防原則」の有効性も主張した。そして結論としては「人口の高齢化は世界的な現象であり、国際レベル、国家レベル、地域レベル、自治体レベルの対策を必要とする」が、それぞれレベルで大きな変化に備える「予防原則」に立つべきであり、その一方、個人レベルでは「予防原則」が自助努力の基調になるとし、両者の理論化が必要とされていることを指摘した。

第 2 報告では、笹谷春美（北海道教育大学名誉教授）が「超高齢社会のケアリング関係ーリスクの増加と社会的対策一」と題し、「先進諸国における 1980 年代以降の高齢化率の高まりと福祉国家の再編の中で、高齢者のケア問題が社会問題として」浮上、その一方で、日本では「介護の家族主義規範、嫁規範が根強く、それが当然視されていたため、家族内における介護の実態解明に対する学問的関心は低く」、家族社会学的（あるいはジェンダー論的）な、当事者視点からの解明が求められていたという研究の出発点を紹介。このため「インフォーマル領域」と「フォーマル領域」におけるケアリング関係分析という形で、家族介護者と、施設の介護職員およびホームヘルパーの双方を対象に、函館市、札幌市、夕張市、東京小金井市などの調査対象地を比較調査し、そのケアリング関係分析から解明された、介護保険制度導入以前と以後の、高齢者介護の実態と問題点を抽出した。とりわけ、興味深い知見は、人口構造の変化や 90 年以降の景気低迷を背景に格差社会の進行や家族形成の変容などを通じ、新たな「介護格差」「介護弱者」の出現が起きているという点である。また笹谷も、金子の提案とは異なる視点（二次的依存者の防止）から、介護者支援策、ワーク・ケア・ライフバランス政策、地域包括ケアシステムなどのマクロレベルの対策を提言した。

両者をつなぐ包括的議論を行うにはセッション自体やや時間不足であったがフロアからも、（研究者）自身の将来に対する不安といった質問も出て、まさに、後進による研究の継続と、さらなる進化に資する貴重なセッションとなったといえよう。

委員会報告

研究活動委員会（平沢研究活動委員長）

研究活動委員会からのお願い

今大会の一般報告への申し込みの際し、申し込み期限に遅れた会員が 2 名おられました。いずれもメ

ールの非着などがあつたため、研究活動委員会で協議の結果、今回は報告を認めました。ただし、これに伴って、プログラムを再度編成しなおすなどの必要が生じました。そこで理事会に本事案を報告のうえ、今後は申し込み期限を過ぎた場合、理由の如何を問わず報告を認めないこととし、総会でもその旨をお伝えしました。なお、メール非着の場合は、期限以前にメールを送信したことを証明できる場合に限って、認めることとします。円滑な学会運営に、これまでもまして会員のみなさまのご協力をお願いいたします。

編集委員会（飯田編集委員長）

『現代社会学研究』第26巻（2013年6月発行予定）の原稿募集について

① 投稿原稿の募集

『現代社会学研究』第26巻の投稿原稿を募集します。投稿を希望される方は、学会ホームページから「投稿申込書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、学会事務局（socio@np-hokkaido.org）に宛ててメールの添付書類として送信してください。その際の添付ファイル名は「投稿申込〇〇.doc」（〇〇には申込者の氏名を入れる）としてください。申込の締切は、8月31日（金）まで（同日必着）とします。申込者には数日のうちに事務局から申込書受理のメールが返信されますので確認してください。申込の時点で2012年度までの会費が完納されていないと申込は受理されませんのでご注意ください。

審査用原稿は「執筆要項」の指定に基づくA4サイズ16枚以内のPDFファイルとして作成し、10月31日（水）必着で学会事務局宛てメールに添付してお送りください（従来は、投稿原稿3部を郵送していただきましたが、これは不要です）。その他の詳細については、学会ホームページに掲載されている最新の「編集・投稿規程」および「執筆要項」を熟読してください。PDFファイル作成方法などについてのご相談は、編集委員長にメールでお寄せください（札幌国際大学・飯田俊郎：t-iida@ts.siu.ac.jp）。

② 書評対象書の募集

『現代社会学研究』第26巻に書評を掲載する対象書を会員の皆様から広く募集します。自薦他薦を問いません。会員の著作（会員の単著、または会員が編著者になっているものが原則）で書評としては是非取り上げて欲しいものがありましたら、その書誌情報（著者名、書名、発行年、版元名）を学会事務局（socio@np-hokkaido.org）までお寄せください。

自薦の場合は、書評を書いて欲しい会員名、リプライ付を希望するか否かについてもお伝えください。またできれば書籍現物もお寄せください。特に指名がない場合は執筆者を編集委員会で決定いたします。当該書の発行時期は必ずしもこの一年間でなくても構いません。過去数年に刊行されたもので、書評対象とするのにふさわしいと思われるものについても可とします。締切は、10月31日（水）必着です。情報を集約の上、編集委員会で検討して掲載の是非を決め、結果をご連絡いたします。

③ 書評原稿および「往来」原稿の募集

第25巻に引き続き書評原稿を募集します。必ずしも書評という形式ではなく、その書籍の内容に何らかの形で言及しながら、ある研究テーマについて展開する内容となっても構いません。また海外事情の紹介やある分野についての最近の研究動向などに触れた「往来」の原稿も募集します。いずれも学術的な内容であることを条件とし、分量はリプライがつく場合は6,000字程度、つかない場合は3,000字程度とします。締切は10月31日（水）必着で、学会事務局（socio@np-hokkaido.org）までメール添付でお送りください。その際の添付ファイル名は「書評投稿申込〇〇.doc」ないし「往来投稿申込〇〇.doc」（〇〇には申込者の氏名を入れる）としてください。但し投稿された原稿の取り扱いについては編集委員会にご一任ください。「往来」の投稿が少ない場合などには、編集委員会から個別にご執筆をお願いすることもあります。その折にはどうかよろしくお願い申し上げます。

北海道社会学会研究奨励金について

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の育成を目的として、2006年より研究奨励金を交付しています。ついては下記により奨励研究を募集いたします。ぜひご応募ください。

1. 募集件数：2件（1件5万円）
2. 応募資格：本会会員（若手単独が望ましい。若手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す）
3. 条件：奨励金交付後2年以内の本学会大会での研究発表、および2年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。
4. 応募方法：まず応募用紙を庶務理事あて e-mail でご請求ください。ついで応募用紙に下記を記入し、庶務理事まで郵送により提出してください。
①研究テーマ、②応募者（氏名・所属）・郵便番号・

住所・TEL・FAX・e-mail アドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等（具体的に）、④研究の方法と予想される成果（具体的に）、⑤指導教員のサインと印

5. 提出期限：2012年10月31日（水）必着
6. 提出先・問い合わせ先：西浦功（庶務理事、あて先は1ページ参照）

会員異動（2012年5～7月）

（ホームページ公開版では省略）

会員情報の更新について

住所や所属が変更になったときは、遅滞なく郵便かメールで事務局（担当：畑 socio@npo-hokkaido.org）までお知らせください。その際、e-mail アドレスもお忘れなくご登録ください。

会費の納入について

2012年度会費または未納分会費について、同封の郵便振替用紙〔郵便振替口座 02760-3-3085〕にてすみやかに振り込み手続きをお願いします。年会費は一般会員 6,000 円、学生・院生会員 4,000 円です。2012年度会費を納入されていない方には、機関誌第 25

巻（本年 6 月発行）をお渡しできません。5 年間滞納されると、自然退会の扱いとさせていただきます。

学会ホームページの移転について

これまで本学会 HP は、国立情報学研究所「学協会情報発信サービスにおけるホームページ構築・提供支援」のもとで運営しておりました。しかし、同事業が本年 3 月でサービス終了になることに伴い、HP を管理するサーバーを移転いたしました。それに伴い、HP アドレスが新しくなりました。

新しい学会 HP の URL は、
<http://www.hsa-sociology.org/> です。
リンクやブックマークの変更は、早めにお問い合わせいたします。

また現在、学会 HP では日本社会学会と西日本社会学会へのリンクを設けておりますが、今後もリンク先を増やす方針で準備を進めております。(a)個人 HP をお持ちの方で学会 HP へのリンク登録を希望される場合や、(b)北海道社会学会がリンクを張るべきと思われる有用なサイトがある場合は、①URL、②メールアドレス、③所属機関等、④氏名の 4 点を学会事務局宛メールにてお知らせください。

第 60 回大会会計報告・2011 年度決算・2012 年度予算案

（ホームページ公開版では省略）